

鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る

地域連携ハブとして町を元気にする小さな拠点

小机駅近くの幹線道路沿い、日産スタジアムを背にして建つ小さな拠点が「町カフェ城郷ノスタルジア（以降、町カフェ）」です。一階は10人入るといっばいになるカフェとインフォメーションセンター、二階にはイベントスペースと相談室があります。居心地はとも良いのですが、やっぱり少し狭い。でも「狭いからこそ全部ここでやるのではなく、ここが人とひと・人と町をつなげる『地域連携ハブ』となって地域を元気にする」というのが「町カフェ」の目標です。

運営団体である「一般社団法人居場所づくり濱なかま」代表理事の岩田さんは、ソーシャルワーカーとして地域の福祉ニーズに向き合ってきた。その中で「地域で豊かな人間関係を築くことで、年齢や障害の有無などに関係なく誰もが豊かな日常を送ることができるのでは」と考えるようになり、そのために、できるだけ多様なつながりがある地域をつくらうと、町内会や民生委員、

地区社会福祉協議会などと共に「鳥山居場所づくりプロジェクト」を立ち上げ、高齢者の交流の場づくりの活動をしていました。しかし、人や情報を循環させていくには日常的な拠点が必要だと考え、新たな場所づくりを模索していたときに、ヨコハマ市民まち普請事業のことがわかりました。



1階をセットバックしてつくった屋外カウンターとインフォメーションセンターが特徴

「これは良い制度だ」と思ったのですが、まち普請を知ったのはなんと応募締め切り当日。岩田さんが急いで仲間に相談をしたところ、全員が「やろう」と賛同を示してくれました。そのまま勢いで申込をし「鳥山ノスタルジアプロジェクト」が誕生しました。これまで同じ思いで拠点のことを議論してきた仲間たちなので、それぞれ得意技をもちより見事コンテストを通過しました。

拠点のデザインは、町への愛着を生む場所になってほしいと、地域の史跡「小机城址」にちなみ、城下町にあるカフェをイメージ。設計は過去にまち普請で整備を行った緑区のCo-coyaの代表でもある関口氏に依頼をしました。整備の過程では、できるだけゴミを出さないように建物の廃材を活用してテーブルをつくったり、子どもたちと一緒に壁塗りワークショップを行いました。拠点の名称は、より広い地域でのつながりあいを目指すという意味を込めて、鳥山よりさらに広い地域を指

す「城郷」を入れました。こうして「町カフェ城郷ノスタルジア」が完成しました。一階のカフェの壁には、城郷の地域が一目でわかるマップが描かれています。



カフェのコーヒーテーブルは階段に使用されていた木材を再利用してDIY。踏板と蹴込板をはめ込んでいた跡がわかる

開かれ、調理師免許を持つ岩田さんが腕をふるう日曜日のモーニングも始まりました。イベントカレンダーは毎月予定がぎっしり詰まっています。団体の活動の原点である高齢者サロンでは、拠点ができることで新しい参加者が増えています。居場所ができるのを待ち望んでいた人がいかに多かったかがわかります。



カフェに城郷のマップがあることで、自然とまちのことが話題にあがる

カフェでは、コーヒーボランティアさんが淹れるこだわりのコーヒーが人気で、近所の人やゆつたり過ごす場になりました。日産スタジアムでイベントがある時には、地域外からも多数のお客さんが訪れたいへんな賑わいとなります。そんな日はボランティアさんが協力して乗り越えています。また、二階をギャラリーとし

て利用できるように追加で整備したところ、近隣にお住まいの方が「地域を描いた絵を地域の人に見てほしい」と個展を開く事例も生まれました。その時も地域の方もちるん遠方からもお客さんが多数訪問してくださり、近隣以外でも拠点のことが広く知られるようになってきました。

さらに11月には4日間にわたって「地域をめぐる城郷まちマルシェ」が開催されました。世界の雑貨販売からモルック体験会、体力測定や竹細工、古着交換など、地元の事業者や団体が集結し賑やかなイベントとなりました。会場となったのは「町カフェ」と隣のコンビニの店舗裏の空地。コンビニのオーナーはまち普請に挑戦しているときからの応援者で、マルシェの会場として空地の利用を相談したところ快諾してくれました。しかし空地は大人の背ほどの雑草が生え荒れていたもので、地域の人たちに声をかけ一緒に草刈りをしました。いまではマルシェだけでなくモルックなどのイベントや交流ができるスペースとなっています。こうやって多様な人たちが緩やかにつながっています。

まち普請に取り組むときに行った、まちのアイデアを出し合う「城

郷プレスト」も引き続き開催しています。「このまちがこうなったらいいな」という意見が活発に交わされ、マルシェの内容もさらに充実しました。これも地域のことへ気づき、考える人を増やす工夫の一つです。



2階ではギャラリー（左）やシニアサロン（右）のほかパン教室なども開催している



拠点がオープンしてからまだ半年ですが、岩田さんは「城郷のこ

とが好きだと言う人が増えてきている」と手ごたえを感じています。その背景には、「町カフェ」がなかった事業、地域団体、行政、そして地域住民の多様なネットワークがあります。まさに「地域連携ハブ」としての一步を踏み出しています。

岩田さんたちは「こういう拠点はひとつだけあっても全然足りない。地域のなかでハブとなる拠点を増やしていきたい」と大きな夢を語ります。それが夢ではなく未来が今から楽しみます。

Access Map

日産スタジアム

整備場所

小机駅

横浜上麻生道路

小机駅東側

横浜市立城郷小学校

JR 横浜線

岸根

鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る（港北区）

整備主体：町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト

整備場所：港北区鳥山町 1013

整備内容：インフォメーションセンターを備えたカフェ

竣工時期：令和5年11月